

【巻頭言】

## 年頭にあって

会長 のとう まさずみ 桒藤 眞純(43 回生)

あけましておめでとうございます。会員の皆様におかれましては益々ご健勝で新年を迎えられたこととお喜び申し上げます。平素は学友会活動に深いご理解とご協力を賜り誠にありがとうございます。平成 21 年もさまざまな出来事の中で瞬く間に幕を閉じましたが、新しい時代の幕開けを予感させる年頭にあたりご挨拶申し上げます。

昨年 8 月 30 日投票の衆議院選挙では野党第 1 党であった民主党が圧勝し、16 年ぶりの政権交代が実現しました。そこで気になるのが、これからの私たちの生活ですが、どのように変わっていくのでしょうか。この 1 年、世界同時不況の嵐が日本経済を直撃し、「2009 年問題」などを背景に失業不安が爆発し、未曾有の経済危機の中、追加経済対策が続々と出されましたが解消の兆しは感じられませんでした。

そんな中、民主党政権が誕生しマニフェストで謳われた様々な政策を実行に移されようとしています。急ピッチな事業仕分け作業によって財源が作り出され予算編成が行われたようですが、強引な施策の実行が景気回復に繋がるのか気になるところです。医療関係では、後期高齢者医療制度の廃止・医療従事者等(医師、コメディカルなど)の増員による質の高い医療サービスの安定的提供・診療報酬改定など、多くの政策が打ち出されています。医療崩壊が叫ばれて久しいですが、医療だけでなく年金や介護など社会保障全体が向上を期待します。

新型インフルエンザの動向も非常に心配です。昨年 4 月メキシコで確認された新型インフルエンザ(H1N1)は世界的に大流行(パンデミック)し、世界保健機関(WHO)は 1968 年の香港風邪以来 41 年ぶりに警戒度をフェーズ 6 = 最高レベルへ引き上げました。感染はその後ますます世界各国に拡大し、WHO の見通しによれば「今後 1~2 年間世界中に広がり続け、感染の終息には 3~4 年かかる」と予測しています。国内でも秋以降、本格的な流行が始まり死者も出ており、予防ワクチンの接種が急ピッチで進められている。早期の終息を願うばかりです。

昔から難事は良いこととされる。困難に遭遇したとき、歴史に学び、先哲の実践や説かれた遺訓に学び、自分に何ができるかを真剣に考え、精一杯の努力で成果を手にしたときの喜びはこの上ないものです。失敗も飛躍・成長のチャンスであると言われ、混迷の今こそ、そのような意識、気概を持つことが望まれます。

母校も平成 19 年 4 月 4 年制大学としてスタートしましたが厳しい社会情勢の中であって順調に 4 年次の完整を見ることは実に喜ばしいことです。少し気が早いですが、来春の大学卒 1 期生の誕生が待ち遠しい限りです。この新時代を迎える学友会の事業遂行に当たっては、会員相互の親睦と母校の後援という本会組織の精神を尊重し、更なる組織結束力の向上を図ることは重要で、母校発展の後ろ盾となります。このことは平成 21 年・22 年度の事業活動の総括として掲げていますが、皆様のお力添えが必要です。いま、地方活動の沈滞している支部が見受けられ、活性化に向けての対策が急がれます。



オープンキャンパスでの挨拶

昨年は地理的な制約を鑑みて沖縄支部の誕生を見ましたが、今年も引き続き支部の編成など支部のあり方について検討を進めます。また、支部総会に卒業生会員、特に若い会員の参加を促す方策として、会長、本部役員、学園関係者の出席に加え、恩師の先生方に出席していただくことも一つの方策かと考えています。学友会の活性化に当たっては、皆様からのご助言、ご意見をお待ちしています。是非学友だよりへの投稿などよろしく願いいたします。

平成 22 年の干支は「寅」ですが、寅年を境に何かが起き、歴史が変わる年でもあるともいわれます。「寅」は、元々は「動く」を意味する「いん」(虫偏に寅)から来ています。春が来て草木が生ずる状態を表している言葉だそうです。後に、覚え易くするために動物の「虎」が割り当てられました。「虎は千里往って千里還る」と言うように、勢いの盛んなたとえで使われ、古来より屏風絵や掛軸などに多く描かれています。両語とも生命力や発展を感じる言葉で、虎の力強さ、豪傑さにあやかり、気魄に満ちた一年を過ごしたいと思います。

結びに当たり、今年こそ、経済不況が回復し社会不安・医療不安が解消され、私たちを取り巻く環境の好転によって学友会及び京都医療科学大学が飛躍の 1 年となることを願って新年のご挨拶といたします。

以上

\* 通巻 194 号 2010 年 1 月 10 日発行(H21 - No.4)より